

アラカルト

西宮運輸事業協同組合事務局長・
兵庫県中小企業組合士協会理事



寺前和則さん
Teramae Kazunori

これからも組合士のよさを伝えていきたい

平成27年度全国中小企業組合士協会連合会会長表彰で「協会運営功労者」を受彰された寺前さんは、長年にわたって兵庫県西宮市の貨物自動車運送事業の協同組合の事務局長と兵庫県中小企業組合士協会理事を務める。

「まさか（表彰を）いただけるとは思っていませんでしたので、光栄です。長く務めさせていただいていますが、今までを振り返ってみると、楽しかったですね」

寺前さんが西宮運輸事業協同組合に入組されたのは平成元年、39歳の時。「平成5年頃に、上部団体である兵庫県貨物運送協同組合連合会の当時の会長から検定試験の受験を勧められました。会長が組合士でしたので、会議の席などで『組合の将来を背負って立つ君たちに、ぜひ組合士になってほしい』と叱咤激励されたのです。そこで、連合会のみんで勉強を始めることになりました」

●仲間とともに……

勉強会では、講師の指導と併せて参加者との議論も有意義だった。「最初にテキストを見た

時は難しく驚きましたが、仲間と一緒にしたので、悲壮感はなく、むしろ和気あいあいと楽しく勉強できました」

グループで励まし合いながら勉強し、合格する例は珍しくない。

「自分だけ受からないと恥ずかしいということもありますね。1科目ずつ受けることができるので、焦らないでがんばってほしいと思います。また、日常の業務内容と結びつけながら勉強すると理解が早まるのではないのでしょうか。前職は医療関係の団体で、経理を担当していたのですが、組合の会計とは違うこともよくわかりました。ただ、組合会計と組合制度は覚えやすいのですが、組合運営はケース・バイ・ケースの部分もあるので難しいですね。運営は、経験が多い方が理解しやすいと思います」

平成7年には阪神・淡路大震災での被災も経験したが、9年に合格した。

●何歳でもチャレンジを

組合士の役割や知識についての評価は高いが、一方で組合事務局の職員の人員削減やパート化による受験者の減少も指摘されている。

「不況が長引き、『組合士を置かなくても、困ったことは中央会に聞けばいい』という風潮になりつつあるのは少し残念ですが、私はこれからも組合士のよさを伝えていきます。勉強すると、組合のことがどんどんわかってきて、仕事も楽しくなりますよ。また、兵庫県中小企業組合士協会の研修では、個人ではなかなか行けないところを視察したり、タブレットの利用法や自社サイトの作り方など実務に直結したセミナーを開催したりと、いろいろ工夫しています。参加する組合士さんたちも性別や年齢が幅広く、有意義な出会いもあります。私も40歳を過ぎてから勉強を始めましたが、何歳でも遅くはありません。ぜひ多くの方にチャレンジしていただきたいです」

このような先行き不透明の時代にこそ、一人でも多くの組合士の誕生が待たれる。